

会 議 録

会 議 の 名 称	第40回藤井寺市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和8年4月17日（金）10時00分～11時40分
開 催 場 所	藤井寺市役所本庁3階 会議室305
出 席 者	<委員> 興石 由美子（会長）、小磯 久美子（副会長）、 岡本 祐典、塩田 利果、爲貞 修子、仲井 茂騎、中辻 智子、 守田 直美、原田 せつ子 <事務局> こども未来部長、子育て支援課 <関係課> こども施設課
欠 席 者	春名 絵美
会 議 の 議 題	(1) 藤井寺市立幼稚園・保育所再編実行計画（後期計画）に基づく 第一次実施計画（案）について (2) その他
会 議 資 料	○ 次第 ○（資料）藤井寺市立幼稚園・保育所再編実行計画（後期計画）に基づく 第一次実施計画（案）
会 議 の 成 立	成立
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した構成員全員の確認を得ている
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍 聴 者 数	1人
その他の必要事項	—

1. 開会

（興石会長）

○挨拶

2. 議題

（1） 藤井寺市立幼稚園・保育所再編実行計画（後期計画）に基づく第一次実施計画（案）について

（興石会長）

議題(1)について、担当課より説明をお願いします。

（こども施設課）

○資料に沿って説明

（興石会長）

只今説明のあった内容について、皆様からご意見ご質問等があればお願いします。

（塩田委員）

市民病院跡地の検討が進んでいるようだが、幹線道路にも面しておらず、車では利用しづらい場所である。実施された市民アンケート調査では、子育て支援機能を求める意見が多かったとのことであるが、希望園に通えないということはあるかも知れないが、本市で保育所が不足していると考えている市民はどれぐらいいるのか疑問であると感じた。

また、保育所等を再編する場合、仮に150人規模の保育施設となれば、保護者の自家用車での送迎にどのように対処するのか。さらに、同施設に高齢者施設の機能も移転されるとのことであるが、どのような効果が出るのか疑問である。

個人的には、子育て支援機能としては、保育所よりも安全に屋内で遊べる児童館のような施設の方が良いのではないかと感じている。

新たな複合施設に保育施設を設置してどの程度の相乗効果が得られるのか、また、駐車場や車の動線にどのように対処されるのかを伺いたい。

（こども施設課）

当該病院跡地全体の利活用については他課所管事項となるため、十分にお答えできるかは分からないが、外部委員も参画いただいて検討を進めてきた病院跡地活用の検討の中で、周辺の保育施設の老朽化状況等も考慮した結果、当該複合施設の中心機能を保育機能とすることが決定された。

また、保育機能のほかに、子ども・子育て支援機能についても検討が進められており、市民アンケート結果を踏まえて、屋内の遊び場の設置も検討されているところである。

安全面について、特に自家用車等での送迎に関しては、ご指摘のとおり、駐車場の確保も含めて非常に懸念されるところである。道明寺南幼稚園前の道路は、朝の交通量が非常に多いうえに幅員が狭く、道明寺南小学校も含め、登下校時には重点的に見守りされている状況であることは認識しており、送迎が集中する時間帯も含め、安全面を最優先に検討を進めていくことは間違いない。ただ、一方通行や時間帯での通行規制、駐車場の配置や建物への動線など、具体的にはまだ何も決まっておらず、今後整備を進めていく中で検討を進めていくことになる。

いずれにしても、特に子どもが通う場所となるため、安全面に最大限配慮しながら設計を進めていくものと聞いている。

（塩田委員）

限られた土地の中で、色々な機能を入れると、中途半端な施設にしかない。ましてや幹線道

路にも面しておらず、多くの方に認識してもらいにくい。

引き続き、十分に検討していただき、是非良い施設を作っていただきたいと思う。

(小磯副会長)

大事なご意見だと思う。構想の段階から住民の方に話を聞いていただけることは有り難いと感じた。市ではこれまで語り尽くせないほど検討していただいていると思うし、その努力には敬意を表したいと思う。また住民の方の意見が実現し、形になっていくことも大事なことだと思う。

病院跡地をどうするかということまで考えていくと非常に大きな話になるので、どこまで議論すべきか、どこまで回答いただけるのか等を考慮し、本日の会議を進めていただければと思う。

私自身も、市民アンケート調査結果について、どのように調査されたのかということは疑問に感じたところであり、教えていただきたいと思う。また、サウンディング調査の結果についても、本日は概要のみの説明で見えない部分もあった。

市の予算というのは市民の税金を使うため、どのように税金を使用されるかについて非常に努力をしていただいていると思うが、金額で表されるようなところのほか、質や内容についても披露いただければと思うが如何か。

(こども施設課)

所管課に確認した範囲の概要にはなるが、市民アンケートについては2回実施した。1回目は各公共施設等にアンケート用紙を設置し、広く意見を募ったところ、400件超のご意見をいただいた。400件超という数値は、本市の人口規模では統計的にも有効な結果ということである。

2回目の市民アンケートは、無作為抽出で協力をいただいた。3,000人を抽出して依頼した結果、資料に記載のようなご意見を中心に、900件超のご意見をいただいた。

なお、サウンディング調査については、概要のみ入手している状況であるため、回答方法等については改めて確認させていただく。

(原田委員)

地元住民としては、地震や水害等も心配である。病院跡地は川にも近いため、子どもたちが安全な場所に逃げられる施設にしてほしいと考えている。市の中心から離れた地域ではあるが、有効に活用していただければ地元としても有り難い。

(中辻委員)

近隣に道明寺どろんこ保育園が80名定員で開園したことを考えれば、病院跡地にできる認定こども園の定員は150名より少なくても良いのではないかと。

また、複合施設には高齢者福祉機能も入る予定とのことだが、コロナ禍では、高齢者施設では外部の人との接触に配慮されていた。高齢者福祉機能と保育機能が同一施設となることについては、今後、コロナのような感染症が発生すれば心配である。

さらに、道明寺南幼稚園の再編までに、在園児の減少で休園する可能性があるということを初めて知ったが、道明寺南幼稚園を50名定員の新しい保育園にするという方法もあるのではないかと。

(こども施設課)

150名の定員というのは、あくまでも現時点の予定として、第4保育所、第5保育所、道明寺南幼稚園の在籍の人数を参考に定員設定したものである。

第三期子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと確保方策は、計画期間が令和11年度までとなるが、複合施設の認定こども園の開園は、当該計画期間よりも少し先になるため、その動向はしっかりと注視した中で、適切な定員設定が必要だと考えている。

保育施設については面積基準があり、必要面積を算出するための仮置きの数値と理解いただきたい。

(中辻委員)

複合施設に入る保育施設の定員設定後に道明寺どろんこ保育園が開園したのか。

(こども施設課)

道明寺どろんこ保育園については、待機児童の解消のため、当時の段階で100人規模の保育施設を公募したものである。一方、今回計画している保育施設の定員設定は、現状の在園児数、確保方策等との整合を図る必要がある。

また、まだ検討の段階ではあるが、複合施設に入る認定こども園とその他の機能については、安全面も含め、建物内での動線も一定の配慮が必要だと考えている。高齢者施設としてどのような機能が入るのかにもよるが、今後、具体的な検討段階において、動線を意識した設計を考えている。

なお、道明寺南幼稚園について、現段階では休園の可能性があるとしているだけで、決定事項ではない。提案いただいたアイデアについては、複合施設に認定こども園を整備する検討の中での参考とさせていただく。

(岡本委員)

公私連携型認定こども園制度は各都道府県で既に実施されていると思うが、他での実例を含め、民間事業者が多額の整備費を負担して参入される可能性があるのか。

現時点で150名の定員という説明ではあるが、5年以降先になれば100名定員で良くなるかもしれない。そのような状況の中で、市が計画・建設した施設において、民間事業者に運営していただける可能性があるのか。居室や園庭等の配置も重要であり、出来上がった施設の状況によっては、どこの民間事業者も手を挙げない可能性があり、公営に変更せざるを得ないこともあると思う。その辺りも考慮したうえでの複合施設整備の計画として考えられているのか。

いずれにしても、民間事業者が参入する場合は、認定こども園自体の特色が必要であり、特徴的な取組によって通わせたいと思う保護者を如何に増やすかということを検討されるはずである。

長期間の計画であるが、結果、計画通りに進まず、全額藤井寺市が負担して運営することになりはしないか、という質問・疑問である。

(こども施設課)

公私連携型の事例について、近隣では羽曳野市が公私連携型認定こども園の設置が計画されている。また、大阪府内でも数事例あり、交野市では民間法人の運営についての検証報告書等が公開されており、参考資料として拝見している。いずれも特に大きな問題は発生していないと伺っている。

複合施設の経費面の試算について、市の負担が少ない場合を優位性と表現しているが、逆に言えば、民間事業者が多く負担いただくということである。また、経費面での負担は、民間事業者として手を挙げる際の判断基準に大きく影響すると言える。

今回の施設整備においては、民間事業者にヒアリング等も行い、民間事業者にとって使い勝手の良い施設となるような工夫を考えているところである。

いずれにしても、民間事業者に応募いただけるかどうかは、立地、周辺の環境など様々な条件があると思うので、参入してもらいやすいよう検討を進めていきたいと考えている。

(爲貞委員)

想定されるスケジュールの中で、埋蔵文化財調査についても説明があったが、以前、自宅近くで行われた建築工事において、埋蔵文化財が発掘されたために、長期間、当該工事が中断されたことがあった。文化財が発掘された場合、開園までのスケジュールに影響するか。

(こども施設課)

資料で示すスケジュールは、あくまでも順調に進んだ場合の予定である。埋蔵文化財もそうだが、土壌調査、地盤調査等を含め、大きな施設を建てる場合には各種調査を行うが、何かしらイレギュラーが生じた場合、例えば、土壌調査に関しては土壌改良等も必要となると、それ相応の期間は必要になってくるため、工事期間や進捗が遅れる可能性はある。

(仲井委員)

この計画について、特に、再編対象となっている施設の在園児の保護者への周知はどのようなスケジュール感で考えられているのか。

また、再編対象となっている３施設の職員はどうなる見込みか。

(こども施設課)

４月２２日から５月２０日までの約１ヶ月間、パブリックコメントで広く市民の皆様から意見をいただく機会を設ける予定である。

また、在園児の保護者、今後入園を考えておられる方、地域の皆様を対象とした説明会を４月２５日（土）に道明寺南幼稚園、２６日（日）午前には第５保育所、午後には第４保育所でそれぞれ実施する。加えて、２７日（月）夜間に、藤井寺市役所本庁舎において、市民向け説明会を開催する予定である。

職員については、本計画案では施設再編後の認定こども園は民間施設となるため、再編対象施設で勤務されている職員は、既存の他の公立施設への異動、配置替え等で引き続き従事いただくことを考えている。開園までまだ時間もあるため、緩やかに配置等を調整しながら対応していきたい。

(仲井委員)

配置替え等を行った場合でも職員に余剰が出ることはないのか。

(こども施設課)

今の想定では、基本的には余剰が出ることはないと考えている。

(仲井委員)

承知した。

(守田委員)

様々な角度から多くの意見をお聞きし、色々な考え方を聞かせてもらうのは大事だと感じたと同時に、保育施設としても何か特化したものが必要だと感じた。在園児に限らず、広く子育て世帯に対してどのようにサポートしていくのか、どのような施設でどのように取り組むのか、というところも大事になってくるのではないかと。

今の親御さんは、お子さんの発達に関わることで悩んでおられる方が多く、我々保育士も試行錯誤しながら対応している状況である。

気軽に相談や悩みを聞いてもらえ、専門的な支援も受けられる設備等がきちんと備わった施設も大事だと思いながら皆さんのご意見を聞いていたところである。しかしながら、１５０人規模の保育施設の運営は非常に大変で、結構な力がないと難しいのではないかと感じている。

また、先程のご意見にもあった多世代交流について、自身の園では藤井寺特別養護老人ホームのデイサービスの利用者の方と定期的に交流している。子どもたち・お年寄り双方の状況を見ながら交流の機会を設けることで、お年寄りも元気になると職員の方から伺っている。普段なかなか車椅子の方と関わる機会がない子どもたちにとっても同様に、良い経験となっている。

市民病院跡地には、そのような交流ができる良い雰囲気の施設ができたら良いなあという夢物語みたいなことを考えていた。

藤井寺市がどうしていききたいのかというのが一番重要なところだと思うので、こういうことを大事にしていきたいとか、こういう思いだ、ということが伝われば良いと感じたところである。

(小磯副会長)

私の方からは要望をお伝えしたい。公私連携型認定こども園については、非常に上手く運営している施設とそうでない施設とがある。上手く運営している施設は、運営に関わる人たちが情熱的に子どもが大きくなっていくことを支援したいという気持ちを持たれている。私が知っている施設は、民間だから公立だからということではなく、子どもを育てることに情熱的な人たちが集まって、非常に良いサイクルが生まれてきている。

また、内装も含め、できる限り費用負担を少なくしたいという民間施設もある一方で、子どもが走り回るようにしたいということで、できる限り間仕切りを作らないようデザインしたいという施設もあるなど、そこに対する想いによって変わってくる。

道明寺こども園が令和5年度に幼保連携型認定こども園に移行された当時、職員の連携が難しいという課題があったと思うが、その後2年以上経過し、どうだったかということも含めて状況を伺いたい。

もう1つは、見えてこない保育の質的な部分をできる限り見える化してほしいということである。見える化というのはデータとして出して欲しいということではなく、先程申し上げたように、繋がることのできる、連携していけるような機関にしていっていただきたいということである。それが大きな願いであり、大事ではないかなと思っている。

(塩田委員)

もっと若い方、これから家庭を築かれていく方の意見も聞きながら進めていただきたいし、その世代がどんな保育園に子どもを通わせたいと考えているのか、率直に意見を聞いてみたいと思った。

(輿石会長)

病院跡地の複合施設の検討について、子ども・子育て会議の議題としては、今回初めて伺ったので、説明をお聞きして意見を申し上げたとしても、どの程度反映されるのか心配になったところである。

結論ありきではなく、もう少し早い段階で意見をお聞きくだされば、もっと忌憚のない意見がたくさん出たのではないかな。

市で十分に検討された中での、ある意味結論的な方向性に対して意見を伺うということだったので、もっと言いたいことはあるが黙っておられる委員がいらっしゃるかも知れない。

この子ども・子育て会議というのは、色々な立場の方々が集まり、藤井寺市の子どもたち、そして子どもたちを取り巻く家庭の方々も含め、皆が子育ては楽しい、嬉しいと感じられ、この子どもたちが大きくなって色々なところで活躍してもらうために必要なものは一体何なのかという、ある意味原点に帰って様々なことを考えられることができる場ではないかと思う。

今回いただいた意見を心に留めていただいて、今後の推進に役立てていただきたいというのが会長としての願いである。

他にどうか。何かまた後でお気づきのことがあれば、市に直接お話しいただきたい。この件に関しては、ここで終わらせていただく。

(2) その他

(奥石会長)

市から連絡事項等はあるか。

(事務局)

○次回会議の開催予定について

(奥石会長)

以上で本日の議題はすべて終了した。進行を事務局にお返しする。

3. 閉会

(事務局)

藤井寺市立幼稚園・保育所再編実施計画（後期計画）に基づく第一次実施計画（案）について、様々な立場から貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

今後、市民説明会、パブリックコメントを行い、広く皆様からの意見を伺いながら計画をまとめていきたいと考えている。引き続きご協力をよろしくお願いしたい。

また先程会長からあったように、委員皆様から意見をいただくタイミングが大事なことを実感した。本日いただいた意見は、今回の議題となった計画だけではなく、今後、子育て支援の取組を進めていく中での参考とさせていただく。引き続き委員各位のご協力をよろしくお願いしたい。

以上で第40回藤井寺市子ども・子育て会議を閉会する。

以上